

<p>教育目標</p> <p>広く世界に目を向け、次の世代を担う、豊かな心をもった、たくましい子どもを育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めざす学校 (〇笑顔にあふれ、生き生きと学び合う学校 〇花を愛し、音楽を愛する心が育つ学校 〇安全に、安心して学べる学校) ・めざす子ども (〇自ら学び、深く考え、行動する子ども 〇思いやりがあり、助け合う子ども 〇自他の生命と体を大切にできる子ども) ・めざす教師 (〇豊かな人間性と教育的愛情をもつ教師 〇常に新たなことに挑戦する教師 〇学校組織の一員として自覚を持ち、協働する教師) 	<p>前年度に残された課題</p> <p>①朝のストレッチや授業を通して、児童の基本的な体力を高めていく。また、低学年から系統だてて指導できるように、各学年での指導内容を明確にしていく。マラソンに代わる冬の体力づくりの取り組みを考える。</p> <p>②なかまと一緒に楽しく学校生活が送れているか、児童の小さな変化に目を配り、早期に対応していく。児童が目標を持って、自主的に取り組みを進めることができるよう、指導助言を行う。</p> <p>③落ち着いた学校生活が送れるよう、職員で指導について共通理解を図りながら声かけを徹底していくとともに、生活目標「心地よい 学校生活を送ろう」をより高めていくため、児童自ら主体的に学校の規範作りをできるように、各委員会を通して取組を続けていく。</p> <p>④言語活動をより豊かなものにするために、タブレットを効果的に使いながら、気持ちを伝えあう授業の工夫を目指して、取組を進める。情報モラルを高める学習を、系統的に実施する。</p>	<p>本年度の重点課題</p> <p>①授業や朝の体操を計画的に行い、課題である柔軟性や筋力の向上を目指す。また、感染症予防に配慮しながら、仲間や運動と多様ななかかわりを通して、運動の楽しさにつづかせたい。また、昨年度の指導内容を引き継ぎながら系統だてて行う。</p> <p>②なかまと一緒に楽しく学校生活が送れているか、児童の小さな変化に目を配り、早期に対応していく。児童が目標を持って、自主的に取り組みを進めることができるよう、指導助言を行う。</p> <p>③児童自ら生活を振り返る中で、その活動意義を掴みとり、主体的に行動できるようにする。また、児童がお互いに声をかけ合いながら規範意識を高めていく。</p> <p>④各教科でタブレットを効果的に使い、自分の考えを友達に伝えたり、友達のことを知りやすくすることを通して、学び合う力を養う授業の工夫を目指して、取り組みを進めていく。</p>	<p>来年度に残された課題</p> <p>①朝のストレッチや体育科を通して、体力テストの考察に応じた基本的な体力を高めていく。また、低学年から系統だてて指導できるように、各学年での指導内容を明確にしていく。</p> <p>②児童の小さな変化に目を配り、早期に対応していく。また、生徒指導上の課題や問題に働きかけができない状況があったので、生徒指導部と情報共有を図りながら、取組を進めていく。特別の教科指導を通して、児童の小さな実習に焦点を当てた学校全体の取組にする。</p> <p>③学校生活の約束に則しては、全職員が共通理解を図るよう、定例集会や学級ごとに職員間の意思統一を行い、全職員が同じ視点で指導できるようにする。配慮の必要な児童への指導や支援については、ケース会議を開催し、全職員で対応できる体制をとる。生徒指導上の課題や課題について、相談、検討できる体制づくりに一層努める。</p> <p>④児童は、進捗を活用し意見や気持ちを表現し、伝えることには慣れている様子ではあるが、直接、伝えるべく相手に自分の意見や気持ちを伝える力が弱くなっている。次年度は、自分の思いや考えを深め、伝えることができる子をめざし、国語科で学べべき基本的な能力である「聞く」「話す」「伝える」の三つに焦点を当てて、研修を進めていく。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>具体的達成目標と評価指標</p> <p>具体的に、何を、いつまでに、どの水準まで、数値化</p> <p>公表日 6月1日</p> <p>公表方法 ホームページ 文書配布 説明会実施 その他</p>	<p>自己評価</p> <p>中間評価</p> <p>評価日 8月29日</p> <p>公表日 8月31日</p> <p>公表方法 ホームページ 文書配布 説明会実施 その他</p>	<p>外部アンケート</p> <p>児童生徒アンケートからの分析</p> <p>評価日 1月10日</p> <p>公表日 1月13日</p> <p>公表方法 ホームページ 文書配布 説明会実施 その他</p>	<p>保護者アンケートからの分析</p> <p>評価日 1月10日</p> <p>公表日 1月13日</p> <p>公表方法 ホームページ 文書配布 説明会実施 その他</p>	<p>自己評価</p> <p>最終評価</p> <p>評価日 1月30日</p> <p>公表日 2月末</p> <p>公表方法 ホームページ 文書配布 説明会実施 その他</p>	<p>学校関係者評価</p> <p>評価者人数 9人</p> <p>評価日 2月24日</p> <p>公表日 3月下旬</p> <p>公表方法 ホームページ 文書配布 説明会実施 その他</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1

○朝の体操を計画的に実施できるように、年間計画を作成する。具体的な動きがわかるようにロイノートで先生方に紹介する。

○仲間と楽しく身体動かすことができるように、各学級で学級遊びを行ったり、運動集会への参加を促したりする。

○学習カードを活用し、振り返りをする中で、自分の技能の伸びに着目できるようにする。

以上の取り組みにより、「運動することが好き」という児童が90%、「体育の勉強でできることが増えた」という児童が90%を超えるようにする。

「運動することが好き」と答えた児童が88.9%、「できることが増えた」と答えた児童が92.1%であった。多くの児童が運動に親しみ、達成感を持っていることがわかる。しかし、1割以上の児童が外遊びを全くしていないかたり、運動が嫌いだと答えている。体育の授業や集会を通して仲間と楽しく身体動かす機会を増やしていきたい。学習カードを用いることで児童がめあてを意識したり、達成感を感じたりすることができた。より多くの児童が達成感や技能の伸びを感じることができるよう、手だてを考えていきたい。

どの項目も1学期に引き続き肯定的な意見の割合が多い。「運動することが好き」が88.1%、「体育の勉強でできることが増えたり、記録を伸ばしたりできた」が87.4%であった。それぞれ目標の90%に届かなかった。体育の授業では、実態に応じて計画的に行うことで児童の体力を伸ばし、達成感を持つようになっている。また、1学期のアンケートに比べて、「休み時間に見て元気に身体を動かしたい」と答えた児童が大きく増えている。学級遊びや運動集会を通して児童が仲間とともに身体を動かす事楽しさを感じることができていることがわかるので、引き続き取り組みをおこなしていきたい。

「学校は、子どもの体力向上に取り組んでいる」の項目で肯定的な意見が96.4%の高い割合であった。児童の体力の高まりをより実感できるように、今後も取り組みを続け、体力テストなどの目に見えない形で成果を上げていく必要があると考える。

学級でおこなうクラス遊び、学年でおこなう運動タイム、運動集会など、1年を通して運動に関わる機会を多く作っている。そのため、運動に親しみを抱いている児童が多く、体力づくり、仲間づくりにいきなっている。体育の授業においても、児童の実態に応じて計画的に進め、進んで運動に取り組ませることができた。授業を通して、友達同士で声を掛け合ったり、補助をしたりする機会を増やし、学び合いができる環境をより整えていきたい。今後も多くの児童を運動に親ませて、運動能力が伸びたと実感できるようにいろいろな取り組みをしていきたい。

・子どもと一緒に遊ぶ教員がいるのは、子どもを運動好き、外遊び好きに育てるために、とても良いと思う。

・生駒取りの課題を把握したうえで、体育科を含め改善に努めてほしい。

・コロナ禍の影響で、運動が制限しているため、子どもの体力や筋力の低下につながるのではないかと危惧している。その中で、プール学習が再開されたことは喜ばしい。

2

○児童の実態を把握し、支援の方法について職員で情報共有したり、研修したりする。

○授業のユニバーサルデザインの取り組みを教師間で共有する。

○「ほかほか言葉」の年間計画に基づき、指導を行う。

以上の取り組みを行い、「なかまと共に学ぶ」ことを嬉しく感じる児童を85%以上にする。

学校全体として、4つの質問項目とも、肯定的な回答をしている児童が多く、友だちと仲良く活動できたことと捉えられることができている。しかし、「相手のことを考えて、やさしく声をかけることができた」、「友だちとやさしく声をかけてもらったことがあるか」という項目では否定的な回答をしている児童がどの学年でも少しずつ見られた。授業、ほかほか言葉の掲示、日々の学級や学校の中での休み時間や行事等を通して、やさしく声をかけるとはどんなことなのか、やさしく声をかける言葉など具体的に指導していくことが課題である。

「協力してなかよく学校生活を送ることができている」という問いに対して肯定的に回答した児童は、94.9%であった。また、「仲間が頑張る様子を見て、自分も頑張ろうと思う」という問いに対して肯定的な回答は93.5%であった。これらの回答は、「なかまと共に学ぶ」ことを嬉しく感じる児童を85%以上にしているという目標を達成することができたと見える。学級で過ごしたり、行事などで仲間と力を合わせて取り組んだりする中で、細やかに指導してきた成果が表れていると考えられる。しかし、1学期同様「相手のことを考えて、やさしく声をかけることができた」、「友だちにやさしく声をかけてもらったことがあるか」という項目では否定的な回答をしている児童がどの学年でも見られた。かけてもらっていても気づけていなかったり、優しい言葉とは何かなど、適宜指導していくことが課題である。今後も児童の様子に気を配りつつ指導を続けたい。

「子どもは、友だちと仲良く学校生活を送っている」の肯定的な回答は94.2%、「学校は、子どもたちに思いやりや心を持ったやさしい学級作り・学校作り」に取り組んでいる」の肯定的な回答は86.7%であった。どちらも高数値が見える。昨年度、一昨年度と比べて数値としての変化は見られない。また懇談会ではコロナ禍で行うことができないが、いろいろな行事を通して児童の学校での様子や学校の様子を伝えていきたい。また、児童の小さな変化に目を配り早期に指導するように、いっそう心がけていきたい。

「協力してなかよく学校生活を送ることができている」「仲間が頑張る様子を見て、自分も頑張ろうと思うことがある」と肯定的に回答した児童は目標数値である85%以上を超えることができた。コロナの影響により学校行事などが以前と比べ減っているが、形を変えて行うことができるものは工夫しながら、学級活動や行事などで仲間と力を合わせて取り組みを設定することができ、教師間で連携しながら細やかに指導してきた成果が表れていると考えられる。ただ、否定的な回答をした児童も少数ながらもいるので、日々、児童の様子に気を配り、対応が必要な場合は早めに対応していきたくを心がけていきたいと考える。

・誕生日を迎える児童が放送で紹介されたり、ほかほか言葉の掲示は、一人一人が大切にされている雰囲気がある。

・否定的な回答をしている児童には、細かな配慮をしてもらいたい。児童の思いを聴く姿勢を持ち続けてほしい。

3

○年間目標を各教室・廊下等に掲示する。

○委員会の児童を中心に、お互いに声かけをさせて廊下の歩き方を意識させる。

○サイレント掃除をし、みんながきれいと思える清掃活動をさせる。

○相手にとどく、心地よいあいさつができるよう、心がけさせる。

以上の取り組みで、廊下歩行の約束を守れた子80%以上、みんながきれいと思える掃除ができたと思える児童80%以上、相手にとどくあいさつができたと感じる児童90%以上にする。

○夏季休業中に、廊下中央の印を描き直し、右側通行を意識させる。

廊下歩行については、右側通行ができている児童は全体の91%(昨年度91%)で、歩いている児童は81%(昨年度86%)であり、昨年度と比較すると少なくなっている。走ってしまう理由としては、「急いでいたから」を連ねている児童が67%(昨年度69%)と一番多く、続いて「遊んでいたから」と回答している児童が17%であった。休み時間前後に走ってしまう場面が多いと考えられる。廊下歩行の安全性について、学校の生活の仕方も含めて再度指導していく必要がある。

また、清掃活動では、81%(昨年度86%)の児童ができていたと回答している。しかし、学年ごとに見ると、本年度の数値目標である80%を下回っている学年もある。「サイレント掃除」の意識付けを徹底していきたい。

あいさつは、全体で93%(昨年度93%)の児童ができていたと回答している。しかし、友だち同士では、あいさつをしている場面が見られるが、教師や地域の人に対しては声かけが少なかったり、自分からはあいさつをせず受け身になっている児童が多い。地域でのあいさつも含め、誰に対して「相手にとどくあいさつ」が意識できるように指導していく。

廊下歩行については、できていると回答した児童が77%と、目標の数値にはとどかなかった。特に、休み時間の前に教室から飛び出して遊びに行ったり、教室に戻る際に走って戻ったりといった行動が多く見られた。また、トイレに行く前や階段で走るといった行動も見られた。校舎内を走ることでも危険につながるなど、廊下を歩くことの必要性や意義を伝えることも「余裕を持って学校生活を送る指導」が必要である。

掃除も、77%の児童ができていたと回答し、目標の数値には届かなかった。各学年実態に応じてサイレント掃除の意義も高まりつつあるが、まだまだ私語も多い状況なので、強化週間等を通して指導を意識付けしていく必要がある。

あいさつは92パーセントの児童ができていたと回答し、目標の数値には達成した。しかし、自分はしているつもりでも相手に伝わっていない時もあるので、相手を意識して丁寧に自分からできる児童が増えるよう、今後も指導する。

「子どもは、交通ルールを守って登下校をしている。」については、肯定的な意見が95%で、理解いたれている。地域の方々の立明や声掛けの支援に助けられているところも多いので、今後も連携していきたい。

「子どもは、あいさつを連ねている。」の項目については、「できている」と感じている保護者が81%であった。校門前の登校指導では頑張ってきていると感じる。来年度以降も、決まった場面だけでなく、相手を意識し、場に応じたあいさつを自分からするなど、あいさつの質がさらに向上するよう、声掛けを大切にしていきたい。

「生活のめあて強化週間」を毎学期実施し、委員会の児童が下学年に声をかけたり、ていねいな学級指導を継続して行ったりすることで、休み時間後も余裕をもって教室に戻る姿が見られた。児童の規範意識は高く、落ち着いて学校生活を送れ、自ら廊下歩行やサイレント掃除を守ろうとする意識も高まった。しかし、その他の校内のきまりに関しては、全職員での共通理解ができず、引き続き指導が徹底できていなかったところもある。引き続き落ち着いた学校生活を送れるよう指導していく必要がある。また、あいさつについては、大半の児童が大きな声で挨拶することができているが、「相手に届く」という観点においては声小さい児童もいるので、誰に対しても自ら気持ちの良いあいさつができることを目指し、今後も学校生活の質の向上を目指していきたいと考える。

・規範意識は高いかと思う。廊下歩行やあいさつはしっかりとできている。

・いじめ認知件数からの聞き取りをしっかりとっている。子どもの実態把握は、ますます難しいように感じるが、来年度も取り組みを続けてほしい。

・不登校対応については、家庭環境に踏み込まなければならぬ。学校だけでなく、地域の方も使ってほしい。

・いじめの概要や不登校児童の状況などを詳細に教えてもらえないだろうか。

4

○「つづきたい力」や「伸ばしたい力」を見据えながら、タブレットの効果的な活用方法について研修を行う。

○授業で情報モラル教育を行う。

○各教科でタブレットを使い、自分の考えを友達に伝えたり、友達のことを知りやすくすることを通して学び合う力を養う工夫を目指す。

以上の取り組みを行い、「相手に自分の考えを伝えることができた」という児童を80%以上、「相手の考えを知ることができた」という児童を80%以上にする。

タブレットの効果的な活用方法にむけて、児童の実態把握アンケートを実施した。「タブレットを活用することで友だちに自分の考えや意見を伝えることができた」の問いでは、「できた」と「どちらかというできた」と答えた児童がすべての学年で8割以上であった。また、「タブレットを活用することで友だちの考えや意見を知ることができた」の問いでは、同様、高学年では9割超えの回答率であった。昨年度に引き続き、継続してタブレットを効果的に活用してきた結果だと考えられる。しかし、低学年では、教師の実態と児童の実態との差があることについて尋ねたことが課題としてあげられた。また、高学年で教科について尋ねると、ばらつきがあったため、どの教科で使うのが効果的なのかまだまだ模索していく必要があると考える。

「タブレットを活用することで、自分の考えを深める(新しい考え)ことができた」の問いでも、すべての学年で8割以上であった。ロイノートの画面共有などを用いた結果、友だちの意見に触れやすくなり、自分の考えを客観視できるようになったと考える。

結果を踏まえ、二学期以降もタブレットを用いて意見交流や共有の場を増やしたり、様々な「伝え方」で自分の考えを伝えたりできるように授業を行い、目標の達成を目指す。また、まだ取り組めていない教科についても取り組んでいき、より効果的な活用方法を考えていく必要がある。

低学年では、1学期以上に自分の意見を伝えたり、友達の意見を知る項目において数値が高くなっていく。ICT支援員の活用などを用いることで、子どもたちがより意欲的に学んでいることがわかる。中・高学年に比べても1学期同様、高い数値で記録されており、積極的にタブレットを使った授業に取り組んでいることがわかる。高学年のアンケート項目であるどのような教科(場面)で活用できたかを見ると、一学期同様に国語や道徳、算数や総合など意見交換の必要な教科をもとにさまざまな活用ができていたことがわかる。1学期よりも教科の種類が増えていること教師側もいろんな場面で活用しようとした結果が現れていると考えられる。一方で、低学年では、キーボード入力にまだ時間がかかるとことや、友達の提出したカードを見る＝学びが深まったになっていることなどの問題も挙げられているので、引き続き子どもたちの様子を見ながら、教師側が学びに向かっていく必要があると考えられる。

「タブレットを使った学習への関心が高まっている」…ABを含ませて去年度と同様高い数値が続いている。日ごころから積極的にタブレットを使って学習を進めている結果と考えられる。「子どもたちは、落ち着いて、人の話を聞いたり、自分の考えを話したりするようになっている」…昨年度より少し下がっている。文章にして書く、タブレットに入力するだけでなく、自分の言葉で伝える授業の工夫が必要であるとを感じる。また、来年度の研修テーマも検討が必要である。

二年間続けてタブレットを活用してきた結果、子どもたちのタブレットの活用能力は格段にあがっている。友達との対応も大変だと思うが、今後も活用を進めてほしい。

・タブレットを活用している際に、教師は、児童の進捗状況をどのように把握しているのか。また、どのような教科で活用している子が多いのかを知りたい。

・言語活動を大切にしているうえで、読み、書くは大切だと感じている。ICT機器に頼りすぎない方がいいように思う。

・効果的に大型モニターを活用している。とても見やすくよい。

・児童が、普通にタブレットを使っている様子を見て、今の子どもはすごいと感じている。先生方の対応も大変だと思うが、今後も活用を進めてほしい。

・タブレットを活用している際に、教師は、児童の進捗状況をどのように把握しているのか。また、どのような教科で活用している子が多いのかを知りたい。

・言語活動を大切にしているうえで、読み、書くは大切だと感じている。ICT機器に頼りすぎない方がいいように思う。

・効果的に大型モニターを活用している。とても見やすくよい。